

日光今昔物語

第十一話

～ 軽便馬車鉄道 ～



渡良瀬地区における軽便馬車鉄道の停車場の様子

かつての足尾銅山は、明治20年代に日本の銅生産の40%を占めるようになりました。銅山が拡大するとともに、足尾地域の輸送も発展、近代化しました。明治23年、日光～宇都宮間に日本鉄道が開通しましたが、同じ年に足尾の地蔵坂から細尾峠を越える索道も完成しました。さらに地蔵坂から渡良瀬まで軽便馬車鉄道(馬で貨車を引く小規模の鉄道)が繋がったことで、東京方面との物資の輸送が



現在の渡良瀬地区

大きく改善されました。写真は当時、足尾の中心基地となった渡良瀬地区の様子です。軽便馬車鉄道は最終的に群馬県の沢入(現みどり市)まで延長されましたが、大正元年、桐生～足尾間に足尾鉄道が開通したことにより、その役割を終え、姿を消すことになりました。現在、花の渡良瀬公園の入口には、荷物を運んだ馬の守り神である馬頭尊が建てられ、当時の様子をしのぶことができます。

1月の人口と世帯数

※住民基本台帳による(1月1日現在)
※()内は前月比

	男	女	計	世帯数
今市地域	31,066人(-14)	32,020人(-5)	63,086人(-19)	22,244世帯(-7)
日光地域	7,859人(-5)	8,545人(-15)	16,404人(-20)	6,517世帯(-11)
藤原地域	5,121人(-3)	5,598人(-9)	10,731人(-12)	4,726世帯(0)
足尾地域	1,456人(-5)	1,630人(-1)	3,086人(-6)	1,649世帯(-3)
栗山地域	976人(-2)	984人(-2)	1,960人(-4)	780世帯(0)
日光市	46,478人(-29)	48,777人(-32)	95,255人(-61)	35,898世帯(-21)

今月の表紙



1月7日(日)、市内では1,165人の方が成人式を迎えました。5つの会場で行われた式には、合わせて88人が出席。人生の門出を祝い、誓いを新たにしていきました。また、会場では久しぶりに会う旧友と笑顔で写真を撮る姿があちこちで見られました。

一喜一憂

広い面積の日光市、取材の対象範囲も広くなります。成人式の折には、新成人の輝くフレッシュな表情と喜びの声を取材するべく、係員は市内の各会場に散ってゆきました。成人の方々にとりましても、良き思い出の1日となることを祈ります。

現在、広報「にっこう」をリニューアルに向けて、係員皆で知恵を出し合い、議論を重ねているところであります。私たちの熱い思いが成果となって、皆様により愛される広報紙としてお届けできるよう、一同努力しております。楽しみにお待ちしております。(冊)